

## 消費者動向調査 No.111

# テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 24 年 10 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人  
(うち回答者 479 人、回答率 95.8%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	6.3
30代	25.9
40代	37.6
50代	19.6
60代	10.6

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	42.6
妻だけ	15.0
両方	42.4

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行  
NCBリサーチ & コンサルティング

## [ 調査結果本文 ]

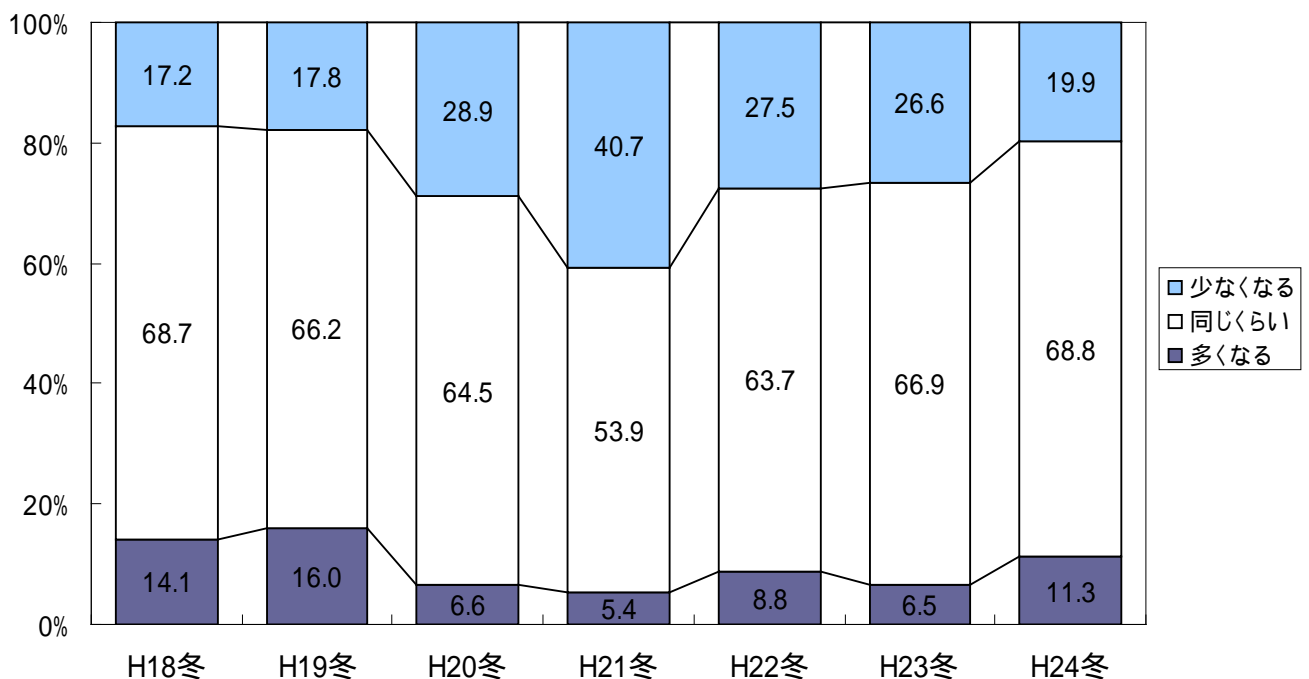
内閣府は11月の月例経済報告で、「景気は、世界景気の減速等を背景として、このところ弱い動きとなっている。」と発表しています。先行きについては、復興需要や海外経済の状況が改善するにつれて、景気回復へ向かうことが期待されるとしています。一方では世界景気のさらなる下振れや金融資本市場の変動などの下振れリスクも指摘しています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、前年冬と比較して「多くなる」は4.8ポイント増加。

冬のボーナスが前年冬より「多くなる」と予測する割合は4.8ポイント増加し11.3%、「少なくなる」は6.7ポイント減少し19.9%、前年冬と「同じくらい」は1.9ポイント増加し68.8%であった。

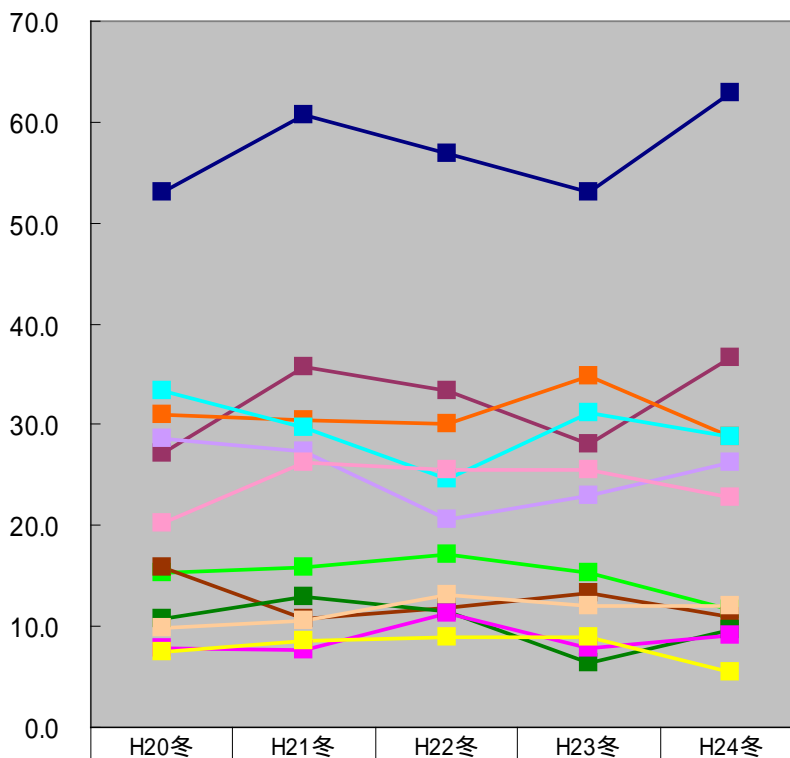
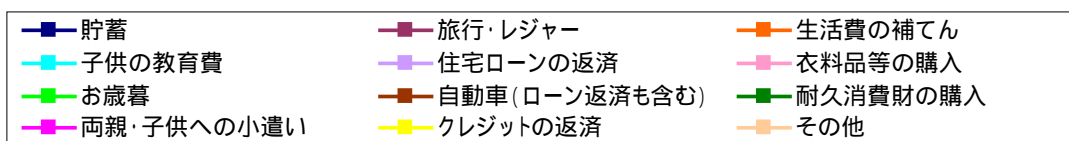
[ グラフ1 : 冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか ] (単位: %)



冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で62.8%。2位は「旅行・レジャー」で36.7%。

冬のボ - ナスの使いみち予定 1位は「貯蓄」で62.8%。これは前年冬の53.0%より9.8ポイント増加した。2位は「旅行・レジャー」で8.7ポイント増加して36.7%。3位は「生活費の補てん」、「子供の教育費」の28.8%となった。

[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）

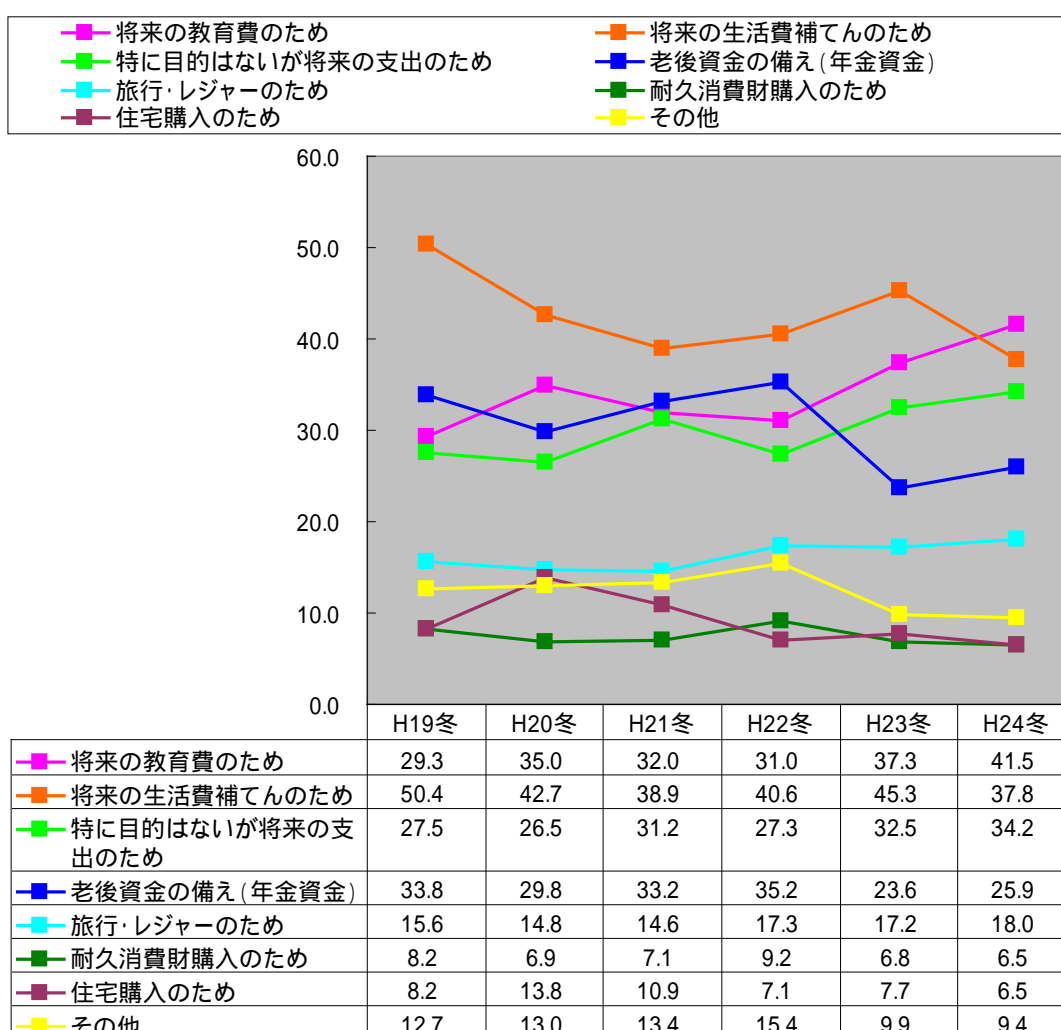


	H20冬	H21冬	H22冬	H23冬	H24冬
■ 貯蓄	53.0	60.7	56.9	53.0	62.8
■ 旅行・レジャー	27.1	35.8	33.3	28.0	36.7
■ 生活費の補てん	31.0	30.4	30.0	34.8	28.8
■ 子供の教育費	33.4	29.8	24.6	31.1	28.8
■ 住宅ローンの返済	28.7	27.3	20.6	23.0	26.3
■ 衣料品等の購入	20.2	26.3	25.6	25.5	22.8
■ お歳暮	15.4	15.8	17.1	15.3	11.7
■ 自動車(ローン返済も含む)	15.8	10.7	11.9	13.3	10.9
■ 耐久消費財の購入	10.7	13.0	11.5	6.4	9.6
■ 両親・子供への小遣い	7.9	7.7	11.3	7.9	9.2
■ クレジットの返済	7.5	8.5	9.0	8.9	5.4
■ その他	9.9	10.5	13.1	12.0	12.1

ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の教育費のため」で41.5%。2位は「将来の生活費補てんのため」で37.8%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の教育費のため」が前年冬に比べ4.2ポイント増加し、41.5%でトップ。2位は「将来の生活費補てんのため」で7.5ポイント減少し37.8%と、景気の先行きや雇用が不透明な中、引き続き将来への備えが上位を占めた。

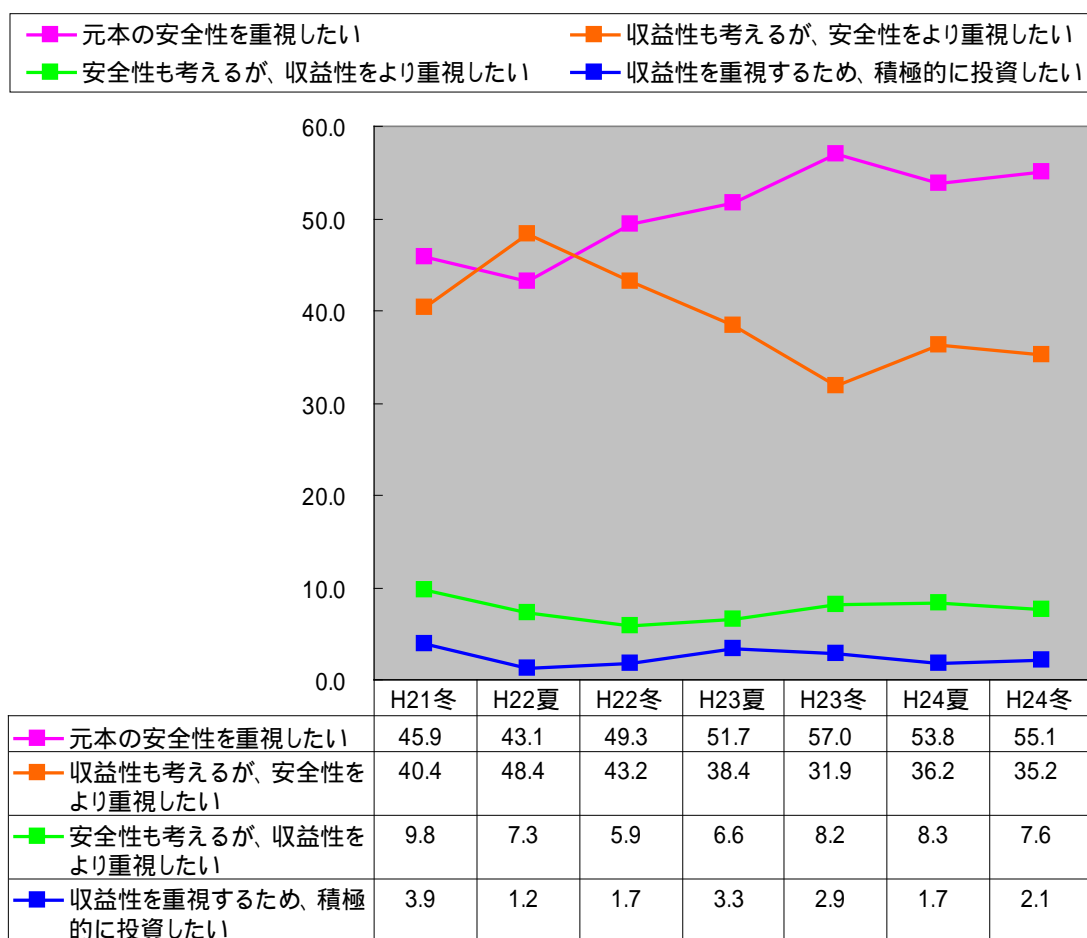
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が55.1%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が今年の夏から1.3ポイント増加の55.1%で5期連続1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が今年の夏から1.0ポイント減少して35.2%。景気回復の動きに足踏みが見られる中、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

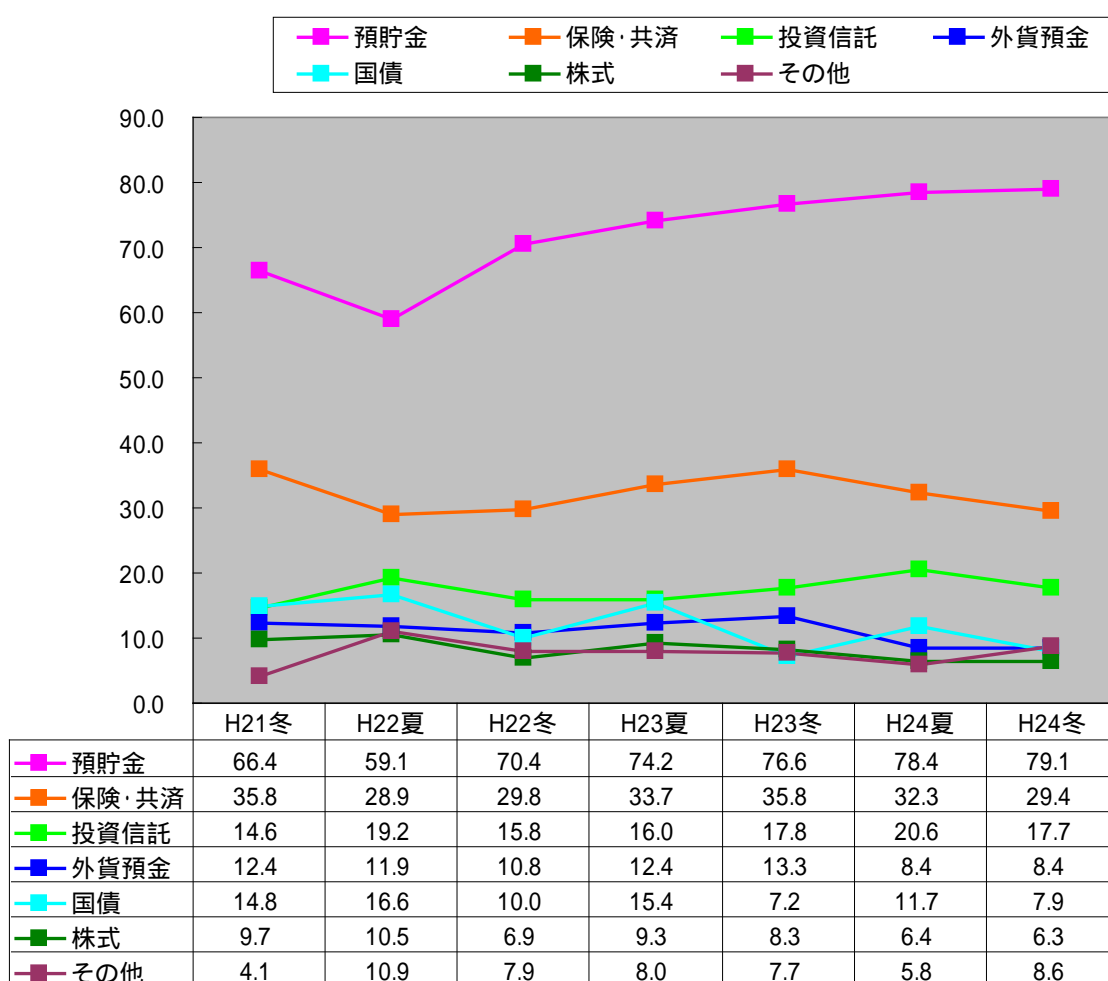
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：％）



関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今年の夏より 0.7 ポイント増加し 79.1%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 79.1%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 29.4%。景気回復の動きに足踏みが見られる中、引き続き安定志向が強く、「預貯金」が過去最高を更新した。リスク商品に対しては、引き続き慎重な姿勢が見られる。

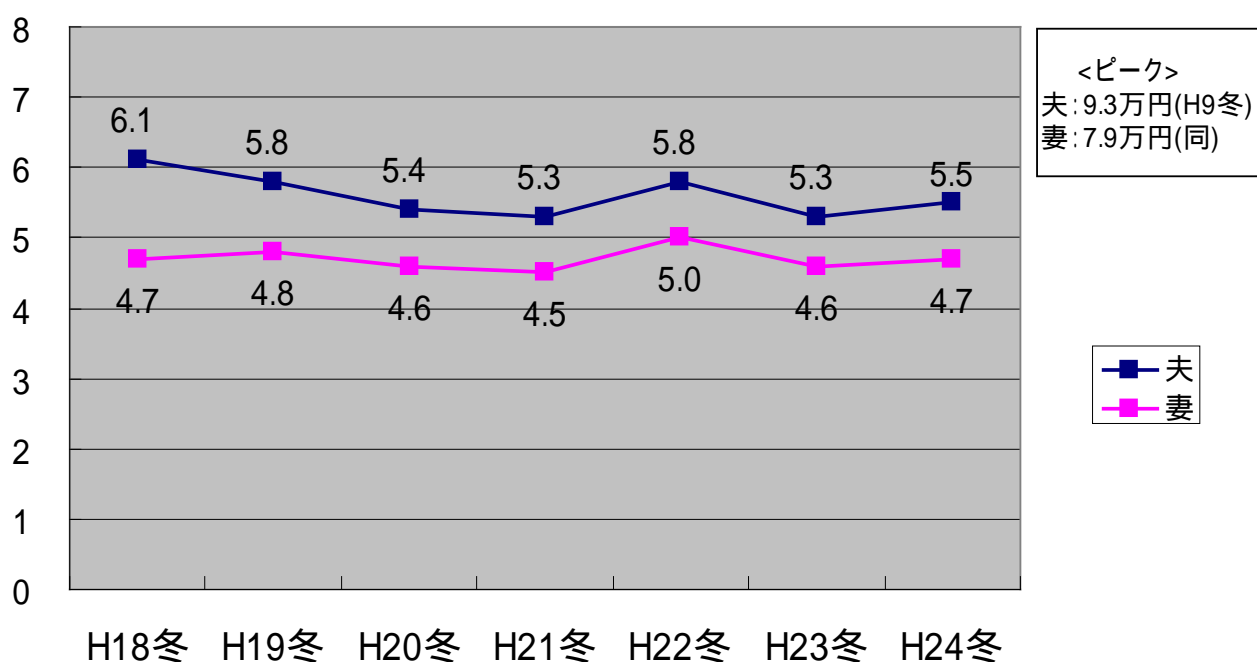
[グラフ 5 : どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)] (単位: %)



冬のボーナス、自由に使える金額は、前年冬に比べて夫は 2 千円アップ。妻は 1 千円アップ。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.5 万円（前年冬比 0.2 万円）、妻が自由に使える金額は平均 4.7 万円（前年冬比 0.1 万円）。冬のボーナスが“多くなる”との予想が増加したのを反映し、自由に使える金額は前年の冬から若干増加した。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] （単位：万円）



この調査に関するお問い合わせ先は  
 西日本シティ銀行 広報文化部 近道・青谷 TEL 092-461-1869  
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051